

研修報告 B班 1 グループ VIVA☆FREEDOM

テーマ1：責任ある情報を公表するための職員の役割

テーマ2：学士課程教育の質的転換を図るための職員の役割

1. 課題認識

テーマ1

- ・大学によって公表している情報のフォーマットがバラバラであり、知りたい情報をすぐ知ることのできる環境でなく、また情報開示も不十分である
- ・部署ごとに、公表する情報を必要に迫られて出しており、情報を伝えたい対象が誰か、また、その情報をどのように活用するか、といった受け手の視点が無い
- ・合意形成の場が存在しない、あるいは有効に働いていない

テーマ2

- ・予習・復習含めた学修時間が減少している→現状が座学中心の受動的な授業が多い為
- ・「答えのない問題」を発見、解決できる能力が社会的に求められるようになったこと
- ・大学のユニバーサル化(進学率の上昇)・多様な入試形態による学生の質の低下

2. 討議内容

テーマ1

- ・情報を公表する意義は学外に対するものと学内に対するものに分けられる
- ・「学外」は社会的機関としての責任、学生・保護者等のステークホルダーに対し適切な情報を公表する意義がある。
- ・「学内」としては情報公表を行うことで、大学の教育力向上や改革に役立てる
→大学のブランド力や競争力の向上
- ・上記のように情報公表するに当たり、発信する情報(教育・研究・学生サービス・地域貢献)そのものについて、学内での議論も深まり、結果として教育情報の質的な転換が求められる

テーマ2

- ・学生の現状・教員の授業内容を知ること。FDフォーラム等を通じて、教職員への自己啓発・底上げを行うことが重要。

- ・教育の質的変換を行えるためのシラバスへの授業計画の厳密な記載の徹底、授業評価アンケートの実質化など環境・仕組み作りをすること
- ・受動的→能動的な授業形態を実施する為、ソフト・ハード（施設・設備）の構築が必要。

3. 提案内容

テーマ 1

- ・情報公表においては、情報の受け手は誰なのか、公表する情報は何なのか、どのような見せ方で公開するのか、どの程度のレベルで公開することが必要なのか等、職員が中心となって学内規定を整備し、情報公表の環境作りをすること
- ・規定を作ったまま放置するのではなく、PDCA サイクルを回すことで、定期的に点検を行い、改善を継続して行っていくこと
- ・情報公表を後ろ向きに考えず、大学の情報公開 (PR) の機会として捉え、より戦略的な観点で考えることで、公表自体を前向きに捉えることが大切

テーマ 2

- ・大学が社会から求められている事を把握し、それに対応するための支えとなること
- ・他大学での成功事例などの情報を集め、自大学での実現方法について、よりよい内容にできるように話し合える場のセッティング、環境形成をすること
- ・意識の高い教職員を巻き込んで全学的に広げていくことが大切

●まとめ（テーマ 1 と 2 を踏まえて）

- ・教育改革は、入口・出口で完結するものではなく、一気通貫で全学的に取り組むことが重要である
- ・大学の主役は教員や学生かもしれないが、これらの改革は職員が中心となってコーディネートして初めて実現するもの
- ・職員が主体的に企画・立案に取り組むことが、責任ある情報公表、教育の質的転換、ひいては大学改革を成す上で不可欠であり、職員一人一人がきちんと考え、取り組むことが重要である